



(上・中右)「地域交流施設整備(玖波公民館建て替え)住民ワークショップ」にも参加。地域の人に交って若者視点の意見を述べ発表しました。(中左)「神楽フェス」では、パソコン操作担当。(左)「ポリスフェスティバル」は準備・片付け。

“体験実践”で関わった事業

とき	催し
8月24日	広島平和記念資料館講座&広島G7サミットの話
8月27日	水族館イン玖波 本物!生ペンギンがやってくる
9月9日	神楽フェス
9月14日	新潟県公民館職員研修会 (リモートで発表)
9月16日	地域交流施設整備ワークショップ①
9月30日	地域交流施設整備ワークショップ②
10月28日	ロビー de カフェ (まちかどピアノ・KUBA男パン職人)
11月18日	サツマイモを収穫しよう(準備)
11月19日	サツマイモを収穫しよう(当日)
11月25日	ポリスフェスティバル・イン・KUBA

公民館の「3つのキモ」 —大学生が、体験実践—

【取材 企画財政課】



玖波公民館での“体験実践”をした、広島修道大学国際コミュニティ学部1年生の三家本陽大さん(左) 佐伯夢星さん(中央) 後川雄大さん(右)



(左) 責任感が強く人なつっこい 後川さん
(中) 優しく気配りのできる 三家本さん
(右) 積極的に地域の方に溶け込んだ 佐伯さん

地域で学び地域で生かす。



栗谷でのサツマイモ掘りでは、みんなが持ち帰るイモを袋に仕分けしました。仕事の後は、ほくほくのイモにかぶりつき少し休憩。

少しでも感じてもらえるよう、「公民館が地域とどう絡みながらまちづくりをしているか、生の声を見聞きし、少しでも何かを持ち帰ってもらえたら」と考えていたそうです。

その表れの一つが、新潟県の公民館職員の研修会にリモートで参加したことかもしれません。「3つのキモ」について、それぞれが分担して発表をしました。自ら感じて考えたことを本番に備え練習を重ね、カメラの向こう側、遠く離れた新潟の人たちに伝えました。

後川さんは、自主事業との関わりの中で見聞きしたことを踏まえ「職員と多世代の地域の人が、コミュニケーションをとっていることに現場主義を実感した」と話し、佐伯さんはコロナ禍での活動が制限された時期のことを知り「コロナ禍だからできる行事を考えて継続していたことに感動した」と思いを述べました。

三家本さんは、当日体調不良で欠席でしたが、代わりに預かったメッ

そして、彼らも「これからも公民館と関わっていききたい」。そんな言葉を残しています。それが公民館という場でなくても、ここでの経験から学んだことを何らかの形で、それぞれの地域と関わってくれることがあれば、何よりではないでしょうか。

「通常公民館は高齢者や子育て世代が活動していることが多い。玖波は中学生が積極的に関わってくれているけれど、それから後の10代後半から20代というのは空白の世代です。今回、学生たちが来てくれたことが公民館にとってもいい刺激になりました」。河内さんは彼らとの日々をあっという間だったと感じていました。

「通常公民館は高齢者や子育て世代が活動していることが多い。玖波は中学生が積極的に関わってくれているけれど、それから後の10代後半から20代というのは空白の世代です。今回、学生たちが来てくれたことが公民館にとってもいい刺激になりました」。河内さんは彼らとの日々をあっという間だったと感じていました。

公民館にとっていい刺激に

およそ3カ月にわたり、数々の事業を経験し終えた彼ら3人。自分たちがこれまで見てきた公民館とは少し違う玖波公民館という場に、新鮮な驚きを感じたと話します。また、地域の人も顔なじみになり、彼らが来てくれることを楽しみとしていたそうです。

これは大学と広島広域都市圏協議会(事務局 広島市コミュニティ再生課)が連携して行っている取り組みで、地域活動を志向する人材の育成や広域都市圏内への就職につながることを期待しているものです。広域都市圏を構成する市町が、学生の

夏の終わりから秋にかけて催された玖波公民館の自主事業の数々。そこに、いつもは見かけないような若者の姿があります。彼らは広島修道大学国際コミュニティ学部の1年生3人。後川雄大さん、佐伯夢星さん、三家本陽大さんは、ともに18歳という若さ。「日頃の公民館では、この世代はあまり見かけないことはない」と公民館職員の河内ひとみさんはいいます。

大学と広島広域都市圏の連携



新潟の研修会場とリモートでつないで、「大学生の声」を届けました。

玖波公民館では「3つのキモ」と呼ぶ大切にしている活動理念があるそうです。地域目線で汗を流す「現場主義」、子ども、若者も巻き込む「多世代交流」、そして結果をすぐに求めないビジョンを持って「継続」する事業戦略を掲げて、さまざまな事業を展開していると河内さんは話しています。その理念を学生たちに、

「現場主義」「多世代交流」「継続」

玖波公民館では「3つのキモ」と呼ぶ大切にしている活動理念があるそうです。地域目線で汗を流す「現場主義」、子ども、若者も巻き込む「多世代交流」、そして結果をすぐに求めないビジョンを持って「継続」する事業戦略を掲げて、さまざまな事業を展開していると河内さんは話しています。その理念を学生たちに、

今年度、大竹市では玖波公民館が学生を受け入れ、そこでの自主事業の運営などに関わるように、プログラムを組んだそうです。

とはいえ、彼らは日頃地元の公民館という場所に立ち寄ることはないと話します。その彼らがこの職場を希望したのは、「幅広い分野での活動に興味を持ったから」「地域に貢献したい」。そんな動機があったからだということでした。